

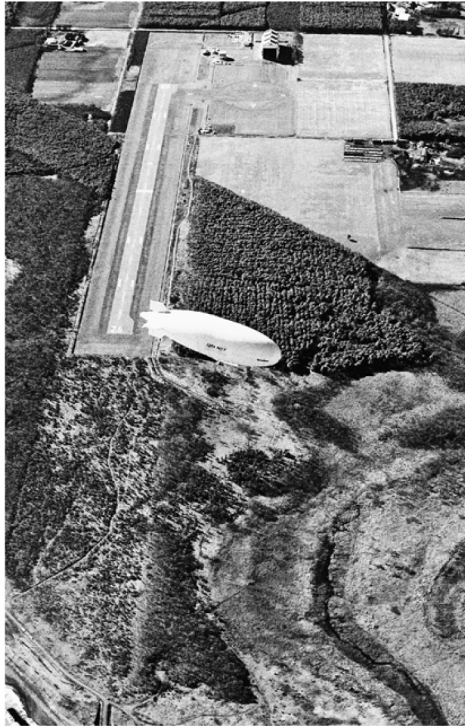
大樹町

打ち上げ誘致に意欲

JAXA10年度 環境の良さアピール 新型ロケット

【大樹】町は、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA、本部東京）が2010年度の打ち上げを目指す新型ロケットの発射場として、町多目的航空園を本格的にアピールしている。JAXAの立川敬二理事長が9月中旬の定例会員で、同ロケットの発射台を移動式で検討していることを明らかにした。大樹での打ち上げの可能性は低いが、伏見町長は「鋭意努力し、打ち上げ場所として誘致したい」と話している。（松村賀裕）

新型ロケットは、9月17日、一回で役目をやり7分短い24分で固体燃



28日に鹿児島県の内之浦に終えた「M5」ロケット。料方式、小型衛星打ち上げの機動性は確保しつ

つ、M5に比べ、打ち上げ費用を大幅に抑制する考えだ。

立川理事長は定例会員で、M5後継機の発射台が可搬型になれば、内之浦宇宙空間観測所以外でも打ち上げられると明言。1例として北海道を挙げたという。JAXA広報部は立川

理事長の発言について、「移動発射台を分かりやすく説明したのでは。現実的には内之浦や種子島宇宙センター以外からロケットを打ち上げるのは設備投資などの面から難しい」とし、新たな発射場を設ける可能性を遠回しに否定している。

伏見町長は定例会員後の9月26日に立川理事長と東京で面会、「ぜひ大樹町でM5ロケットの後継機を打ち上げてほしい」と要望した。伏見町長は「理事長は大樹の環境の良さは理解しているはず。今後も要望は続けたい」としている。

同公園は、全長1.5キロの滑走路や巨大な格納庫を

大樹町がJAXAによる新型ロケットの打ち上げ場所として誘致を目指す町多目的航空公園

備え、昨年に68回の飛行船を浮上させる実験が行われるなど、最新の航空宇宙実験が相次いでいる。JAXAは来年度から、新小型ロケットの研究に本腰を入れるだけに、今後の動向に注目が集まりそうだ。